

化学品事業

当事業部の製品は、その多くが工業薬品であるアンモニア、硫酸、それらを川下へ付加価値展開した誘導品・高純度品で構成されており、幅広い分野で人々の暮らしを支えています。効率的な生産体制を構築し、優れた製品・技術を提供するとともに環境負荷低減にも努めています。

執行役員 化学品事業部長
沖川 敏章
OKIKAWA Toshiaki



基礎化学品

硫酸・硝酸・アンモニア・尿素などの工業薬品およびその誘導品類を多岐にわたる産業向けに販売しています。国内外の景気動向や原燃料価格の変動などの外部要因による損益影響を最小化し、より強固な事業基盤を構築すべく、一層の生産体制の効率化を進めています。

一方で、先端分野に対応する製品の生産・供給にも努めており、限界まで不純物を除去した高純度の硫酸・硝酸・安水・液安などを市場に提供しています。

また、大気汚染の原因とされているディーゼル車の排出ガスに含まれる窒素酸化物を、窒素と水に分解する高品位尿素水「アドブルー®」*の製造・供給システムを確立し、環境負荷低減に貢献しています。

* アドブルー®は、ドイツ自動車工業会(VDA)の登録商標です。

ファインケミカル

プール・浄化槽向けの殺菌消毒剤「ハイライト®」、食品工場の排水中の油脂を分解する微生物製剤である「ビーナス®オイルクリーン」などの環境化学品や、化粧品などの用途で使用される高級アルコール「ファインオキシコール®」などを取り扱っています。

また、尿素の誘導品であるシアヌル酸由来の高機能化学品「テピック®」、「メラミンシアヌレート」を収益拡大の主要製品と位置付けています。「テピック®」は、粉体塗料の硬化剤として用いられるほか、ソルダーレジストインキやLED用封止材などの電子材料向けの需要が伸びています。「メラミンシアヌレート」は各種エンブラのノンハロゲン系難燃剤・難燃助剤として使用されています。これら既存製品の用途拡大に注力するとともに、当社独自のシアヌル酸誘導品の研究開発を推進しています。

2022年度の進捗

1 シアヌル酸

「シアヌル酸」は「テピック®」や「ハイライト®」、難燃剤用途の「メラミンシアヌレート」などの原料です。当事業部の成長の源泉である「テピック®」および「ハイライト®」を安定的に市場に提供するため、2020年12月にシアヌル酸製造設備を増強し、売上増加に貢献しています。

2 テピック®

特長のあるトリアジン骨格を有する高機能化学品「テピック®」は、幅広い用途で使用されています。電材グレードについては、ソルダーレジストインキ用途で5G基地局、自動運転向け基板など、今後も情報通信をはじめさまざまな分野での需要拡大を期待できます。2022年度は、中国のロックダウン影響などを受け計画未達となりましたが、2023年度はコロナ禍からの回復、増販を見込んでいます。汎用グレードは原燃料・物流費上昇による国際市況高騰を受け、販売価格を是正しました。汎用グレードでの低価格競争を避けつつ、高品質グレードを拡販しバランスの取れた販売戦略を進めていきます。

3 ハイライト®

SDGsの一つに掲げられた「水・衛生環境の改善」は、グローバルな重要課題です。「ハイライト®」の一部グレードは、発展途上国など飲料水の衛生管理が不十分な地域で、飲料水用殺菌消毒剤の原料として規格認証を受けており、輸出しています。世界的な消毒需要と飲料水用殺菌消毒剤用途の需要に応じていきます。

4 高純度硫酸

高純度硫酸は、今後も伸長を続ける情報通信分野での需要拡大を見込んでいます。2022年度は、半導体工場の生産調整を受け計画未達となりましたが、2023年度後半には生産調整の終了、出荷増量の見通しを立てています。引き続き、高品質・高稼働の維持に努めていきます。

Vista2027の事業戦略

機会とリスク

- 原燃料価格の上昇
- 半導体市場の伸長
- 環境配慮型製品の需要増加
- カーボンライジングの導入

強み

- アンモニアを基幹原料とした誘導品展開による、高い自消率・高付加価値製品の製造プロセス
- 工業薬品の超高純度化に関する半世紀を超える研究とノウハウの蓄積

主要施策

1. メラミン事業撤退後のアンモニア系事業収益性改善
2. 高純度硫酸の拡販
3. シアヌル酸、ハイライト®の拡販・収益性向上
4. 微生物製剤「ビーナス®オイルクリーン」の事業展開

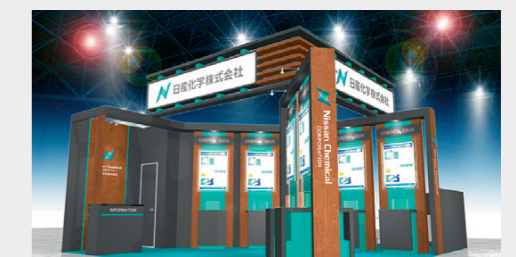
Vista2027達成に向けての

取り組み

「Vista2027」初年度となる2022年6月に、半世紀以上、アンモニア系製品群の基幹製品であり続けたメラミンの製造を中止しました。一方、硫酸製品は増大する需要に応じた設備投資、設備更新を行っていきます。化学品事業は原燃料価格や需給バランス・市況の影響を受けやすく、今後も環境の変化に応じて、繰り返し、柔軟に事業戦略を見直し、安定的な収益の確保に努めていきます。

事業の持続的成長の源泉として、電子材料分野向け製品の販売強化を進めるとともに、シアヌル酸誘導品を中心とした新規製品の開発・展開に注力します。塗料・接着剤用添加剤としての

効果が期待できる、「スターファイン®」(シアヌル酸亜鉛)の本格事業化も開始しました。「テピック®」の新グレードとあわせて、既にさまざまな用途で多くのユーザーに評価いただいています。また、微生物製剤「ビーナス®オイルクリーン」で廃棄物削減にも貢献していきます。



新機能性材料展2023に出展(スターファイン®)

機能性材料事業

進化の早い当事業では、市場のニーズ・技術動向の迅速・的確な把握が必要であり、海外拠点を含め営業・研究・生産が一体となった顧客に密着した活動を重視しています。当社が培ってきた確かな技術力をもとにした製品・サービスの提供により、社会の発展への貢献を目指します。

取締役専務執行役員 機能性材料事業部長

石川 元明
ISHIKAWA Motoaki

ディスプレイ材料

液晶分子を一定方向にそろえるための配向材を手掛けています。1989年に「サンエバー®」の販売を始め、液晶タイプがTN、STN、TFTへと変化するなか高機能化を図り、シェアを拡大してきました。さらに2014年には光配向技術を取り入れたIPS液晶用光配向材「レイアライン®」の販売を開始し、現在ではこれが主力製品となっています。これまではスマートフォン・タブレット・ノートPCに多用されてきましたが、今後は、モニターや車載用途でも高精細化が進み、さらに需要が伸びると期待しています。

半導体材料

米国Brewer Science, Inc.とのライセンス契約に基づき、1998年から「ARC®」*1の生産販売を始めました。「ARC®」は、フォトレジストを微細加工する際の光の乱反射や干渉、塗布不良などのトラブルを防止するコーティング材

料です。2007年には多層プロセス用材料「OptiStack®」*2を発売し、事業拡大を果たしました。

2018年にはEUV露光技術（波長13.5nm、半導体回路幅7nm以下）が量産導入され、EUV用材料の量産品の高品質化および次世代向け開発を進めるとともに、微細化の限界に備え、三次元実装技術にも注力しています。

*1、2 ARC®、OptiStack®は、Brewer Science, Inc.の登録商標です。

無機コロイド

1951年、繊維処理剤としてナノシリカの水分散液、「スノーテックス®」の販売を開始、現在では有機溶媒分散液である「オルガノシリカゾル」や、無溶剤で使用できる「モノマーゾル」を提供しています。これらの製品は光学フィルムのコーティング剤、電子基板材料の研磨剤などの分野で使用される、必要不可欠な材料です。今後はCCS/CCUS関連材料の開発に取り組み、環境配慮型新製品への用途展開を図っていきます。

2022年度の進捗

1 TV向け液晶配向材

現在は、スマートフォン、タブレット向けの配向材、特にIPS液晶用光配向材がディスプレイ材料の主力となっていますが、今後はTV向けにも拡大展開していきます。液晶TV需要は台数では多少減少するものの、面積ベースでは今後も拡大していくという予測が出ています。また高精細化も進行すると考えられ、顧客からの技術要求に的確に対応し、当社製品のシェア拡大を図ることが重要なテーマであると認識しています。2022年度はVA液晶用配向材において一部顧客で競合からの切り替えがありシェアを伸ばすことができました。

2 半導体材料の開発力強化と増産体制の構築

先端向けEUV材料の開発力を強化し、現行世代の品質強化および次世代向けEUV材料の開発に注力しています。また、韓国向けの開発スピード強化のため、NCKにR&Dセンター半導体部門を新設（2023年4月1日）するとともに、今後の市場の成長に対応すべく、韓国唐津市に新たにNCK BARC第3工場を立ち上げ中です（2023年5月15日完工）。

3 オイル&ガス用途およびCCS、CCUS用途

オイル&ガスの回収率向上目的に無機コロイド材料の拡販をしています。2022年度は油価高騰の市場背景を受け、新規顧客の獲得もあり、前年度を上回る売上となりました。また、カーボンニュートラルに向けた用途開発として、CCSやCCUS用途への取り組みを行っています。2022年度は実証試験に向けた有益なデータを得ることができました。



Vista2027の事業戦略

Strategies of Vista2027

機会とリスク

- IPS液晶用光配向材の適用拡大、OLED市場の伸長
- 半導体市場の拡大と三次元実装技術の進展
- スマート社会の発展
- 企業間競争の激化

強み

- 中国、台湾、韓国顧客に密着した販売、研究体制
- 光制御技術
- 機能性高分子設計技術
- 微粒子制御技術

主要施策

1. 現有製品の改良・用途拡大
2. 設備増強・整備
3. 新製品の開発・上市
4. NCK新工場の商業稼働
5. 無機コロイド事業の収益性改善

Vista2027
達成に向けての

取り組み

次世代ディスプレイ材料

液晶よりも薄型軽量で高速応答などの特長を持ち、フォルダブル化などの付加価値を有する有機ELがスマートフォンやプレミアムテレビなどに採用されるケースが増えてきました。最近では有機ELに続き、量子ドット（QD）やLEDの技術を組み入れてより高画質を謳う次世代自発光ディスプレイも盛んに開発されています。当社は、光取出し材、剥離層材料、QD関連材料などの独自材料開発を進め、実需化を目指していきます。

半導体実装材料

IoT、5G、センサーなど、高速大容量の情報通信に関わる技術が加速的に進歩しています。これに対応して電子回路形成におけるさらなる微細化・高集積化が進行しています。当社は薄片化した半導体ウェハを三次元に積層化する実装プロセス向け材料開発にも取り組んでおり、市場の拡大にあわせて拡販していく計画を立てています。

農業化学品事業

新規薬剤の探索から開発・製造・販売までの一貫した事業活動と、他社剤の買収や共同開発による幅広い製品ラインアップの拡充を通じて、安定した食料の供給に貢献します。

常務執行役員 農業化学品事業部長

佐藤 祐二
SATO Yuji



農業

1910年代、当社前身の日本舎密製造と関東酸曹で殺虫・殺菌剤の製造・販売を開始したことから当社の農業化学品事業は始まりました。1984年に上市した「タルガ®」(畑作用除草剤)を皮切りに、「シリウス®」(水稲用除草剤)、「サンマイル®」(殺虫・殺ダニ剤)、「パーミット®」(水稲・トウモロコシ用除草剤)、と自社開発品の製造・販売が続き、着実に収益性を高めてきました。

その後、自社開発の遅延や競合会社との競争激化と苦しい時期がありましたが、2008年に「ライメイ®」(殺菌剤)を上市してからは、再び自社開発品を堅調に市場に投入し続け、2009年には「スターマイル®」(殺ダニ剤)、2012年には「アルテア®」(水稲用除草剤)、2018年には「グレースシア®」(汎用性殺虫剤)の販売を開始しています。加えて、他社剤の買収も積極的に進めており、2019年にグローバル製品「クインタック®」(殺菌剤)、2020年には汎用性ある「ダイ

セン®」(殺菌剤)の日本と韓国事業を継承し、農業製品ポートフォリオを充実しました。

動物用医薬品

当社は農業用殺虫剤の開発を進めるなかで、農作物の害虫だけでなく、イヌ・ネコに寄生するノミ・マダニの駆除にも効果がある化合物を発見し、動物用医薬品の検討を続けてきました。2008年、インターペット社とライセンス契約を締結。当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とする動物用医薬品の開発が進展しました。

2014年に欧米で「ブラベクト®錠」*の商品名で販売を開始し、現在では「フルララネル」を有効成分とする動物用医薬品は100カ国以上で愛用され、農業化学品事業部を牽引する製品に成長しています。また、イヌ・ネコ以外の対象では鶏、牛、羊向けの「エグゾルト®」*も登録取得国を増やしています。

*ブラベクト®、エグゾルト®は、Intervet International B.V.ならびにIntervet Inc.の登録商標です。

2022年度の進捗

1 グレースシア®

自社開発の殺虫剤であり、幅広い作物害虫に速効的に作用し、有用昆虫であるミツバチへの影響が少ないなどの特長を有します。2018年に韓国で上市し、2019年5月に国内販売を開始しました。2021年インドネシア、2022年にはインドでの上市を果たし、さらに2023年以降にはアジア各国での上市を順次予定しています。



2 ラウンドアップ®

「ラウンドアップ® マックスロード」の省力的な散布を可能とする「ラウンドノズル® ULV5」の普及が進み、2021年度に発売となった大型生産者向けのブームスプレーヤ用ノズルを活用した「ラウンドアップ® マックスロード」の販売増を進めています。一般家庭向けの「ラウンドアップ® マックスロードAL」は、引き続き新規ユーザーの獲得および小売流通の拡大による販売増を見込んでいます。

3 フルララネル

フルララネルを原体とするペットおよび家畜用動物薬は、100カ国以上で発売されています。フルララネルを原薬とする動物薬は、2022年度もペット向けを中心に前年度比販売増を達成しました。少子高齢化の進行に伴い、ペットは飼い主にとって家族同然の存在という考え方が浸透しています。ペットの健康に配慮する意識の高まりに伴い、今後ますます動物用医薬品の需要は増える見込んでいます。

Vista2027の事業戦略

機会とリスク

- 国内人口減少による労働力不足
- 世界人口増加による食料増産対策の必要性の高まり
- バイオ系農薬・資材の伸長
- ペット市場の拡大

強み

- 精密有機合成と生物評価というコア技術による特長ある新農薬の創出能力
- 探索から製造・販売まで長年にわたる経験と実績
- 高利益率の維持と継続成長で培った高いモチベーション

主要施策

1. グレースシア®など主力剤の普及・拡販、大型農家・法人、一般消費者向けの各取り組み継続強化
2. NC-653(新規除草剤)、NC-656(新規除草剤)、NC-520(新規水稲箱処理殺虫剤)の着実な開発と新たなパイプライン創出
3. バイオ研究チームの立ち上げ

Strategies of Vista2027

Vista2027達成に向けての

取り組み

製品ポートフォリオを充実させるため、バイオ農薬を含め他社製品の導入および共同開発を継続して実施していきます。

また、自社開発品としては水稲湛水処理用除草剤(開発コードNC-653)に引き続き、水稲茎葉散布用除草剤(開発コードNC-656)、水稲箱処理殺虫剤(開発コードNC-520)の開発も始めています。さらに、インドに農業原体製造を目的として、合併会社(Nissan Bharat Rasayan Private Limited)を設立し、2023年3月商業生産を開始しました。本合併会社の原体工場が小野田工場に加わることで、当社農薬の需要拡大

に対応しつつ、コスト競争力も兼ね備えた堅牢な農業原体生産・供給体制を構築することにより、農業事業の成長に貢献できると期待しています。



ヘルスケア事業

事業環境の変化を適切に捉え中長期的に成長するため、事業領域の選択と集中を加速し、当社独自技術をもとに新薬、ジェネリック医薬品および医療材料の開発/上市を通じて健康問題の解決へ貢献します。

執行役員 ヘルスケア事業部長

石綿 紀久

ISHIWATA Norihisa



ヘルスケア

1970年代、異業種からの医薬品事業への参入が相次ぎました。当社は生活習慣病にテーマを絞って研究開発を開始し、1994年に高血圧症治療薬「エホニジピン塩酸塩」を上市しました。日本ではゼリア新薬工業、および塩野義製薬から「ランデル®錠」*1として、韓国ではGC Biopharmaから「FINTE® tab」として販売されています。

2003年には高コレステロール血症治療薬「ピタバスタチンカルシウム水和物」を「リバロ®錠」*2として興和から上市し、現在は世界30カ国以上で販売されています。2013年に国内の物質特許が満了となり、ジェネリック医薬品によるシェア低下、薬価改定の影響を受け、国内は厳しい状況が続いており、新薬創出が急務となっています。

2022年4月の組織改定により、創薬研究機能を企画本部に移管しヘルスケア企画部が担当、導出段階からヘルスケア事業部が担当し、医療材料とあわせてより広いヘルスケアという総合的な視点で事業を展開しています。

ファインテック®

顧客のニーズに合わせて医薬品原薬開発をトータルにサポートする課題解決型受託事業および共同開発型事業を展開しています。前臨床から商業生産に至る各ステージでの製造プロセス開発およびGMP適合下での医薬品原薬・中間体の製造受託に加え、これに付随する品質設計、安定性試験、不純物・代謝物標品合成、原薬等登録原簿申請資料作成なども対応しています。

近年は、ジェネリック医薬品原薬供給の事業を拡大させ、封じ込めが必要な高活性原薬への対応はもとより、多岐にわたる精密有機合成技術に基づく独自の二成分連結法によるプロスタグランジン誘導体に加え、高活性ビタミンD3医薬品原薬を効率的に製造しています。さらには、独自液相合成技術「SYNCSOL®」の開発による画期的なペプチド製造受託を行っています。

*1 ランデル®は、ゼリア新薬工業株式会社の登録商標です。

*2 リバロ®は、興和株式会社の登録商標です。

2022年度の進捗

1 核酸創薬加速のための基盤技術構築と製薬企業との共同創薬の推進

核酸医薬品は、医薬品の次世代の主役として注目されています。当社は独自の核酸創薬基盤技術を強化し研究を加速するとともに、2019年より複数の製薬企業と共同で開発化合物の創出に取り組み、提携を拡大しています。

2 低分子創薬加速のためのモジュラス社との戦略提携の推進

近年のスーパーコンピューターの進化により、標的分子に対する低分子医薬候補化合物のデザインを高精度に行えるようになりつつあります。当社は2021年より、最先端の計算科学などの基盤技術を駆使するモジュラス社の開発候補化合物について、当社が原薬開発を分担して共同で製薬企業へ導出する戦略的提携に取り組んでいます。

3 効率的なペプチド製造技術の確立

2018年に特殊ペプチド医薬品原薬の安定的な供給体制の確立を目指すペプチスター社に出資。この間、飛躍的なコスト削減を可能とする新規ペプチド液相合成技術（SYNCSOL®）の開発に至りました。今後は、医薬品原薬のみならず周辺医療材料への展開も図っていきます。

4 高生理活性ジェネリックの継続的上市

高齢化とともに骨粗しょう症患者数が増加するといわれており、骨粗しょう症治療薬である「エルデカルシトール」の需要が増えています。当社は、高活性ビタミンD3医薬品原薬である「マキサカルシトール」の生産実績をもとに、不安定かつ高度に品質コントロールを必要とする「エルデカルシトール」原薬の販売を2020年度より開始しました。今後は新規開発に加え海外市場への展開も視野に入れ、安定供給体制を整え、成長の源泉として育てていきます。

Vista2027の事業戦略

Strategies of Vista2027

機会とリスク

- ジェネリック医薬品の増勢
- 中分子医薬開発への取り組み拡大
- 高齢化と医療の多様化
- 企業間競争の激化

強み

- 精密有機合成技術
- GMP体制下による高度封じ込め技術
- 原薬CMC対応力
- 最先端評価機能

主要施策

1. ヘルスケア：核酸創薬への重点投資、医療材料（生体界面制御材料、化粧品材料など）の実需化・拡販
2. ファインテック®：高収益ビジネスモデルの強化、海外市場への展開、共同開発の指向（ペプチドなど）

Vista2027
達成に向けての

取り組み

当社独自の核酸創薬基盤技術を活用した核酸医薬に注力し、製薬各社との共同創薬を着実に推進します。低分子医薬は既存創薬からの転換としてAI活用に取り組みます。「リバロ®原薬」は、スケールメリットを活かして展開します。医療材料は、生体界面制御材料や化粧品材料などの新製品の実需化や拡販を進めます。2015年度に上市したジェネリック医薬品「マキサカルシトール」に加え、2020年度に上市した同「エルデカルシトール」については、事業の柱として大きく成長を遂げました。今後は、当社の強み

を活かした新規ジェネリック原薬の開発を加速するとともに国内のみならず海外でのビジネスを本格化します。さらに、独自液相合成技術「SYNCSOL®」の圧倒的技術的優位性を武器に、ペプチド受託事業および共同開発事業を展開することにより、ファインテック®をさらに高収益性事業として発展させていきます。

新薬や医療材料の成果獲得には時間がかかります。それまでの期間は、高収益性ファインテック事業で屋台骨を支えながら、新薬と医療材料の開発に果敢に挑戦し続けていきます。

企画本部

当社コア技術に新素材・新技術を融合させ、社会ニーズに合致する高付加価値な新製品・新事業の創出に邁進しています。さらなる開発加速のため、2020年度に企画本部を設立、2022年度に創薬・医療材料の機能を統合しヘルスケア企画部を、2023年度にアニマルケア企画グループを新設しました。

常務執行役員 CTO 企画本部長

遠藤 秀幸

ENDO Hideyuki



ヘルスケア

核酸医薬を中心とした創薬研究、再生医療関連材料、化粧品原料の事業化に向けた企画開発を行っています。

創薬研究では、核酸医薬に注力、画期的な新薬創出により患者のQOL向上に貢献するため、アカデミアやパートナー企業との協業によるプラットフォーム強化と製薬企業との提携により堅牢な研究開発ポートフォリオの構築を進めています。

再生医療分野では、安全性が高いといわれている間葉系幹細胞の三次元大量培養を実現する足場材「Cellhesion®」を用いた医師主導臨床研究を開始、加えて、細胞塊（スフェロイド）の非凍結輸送・保存材「Advance-CR」の有償出荷を開始しました。また、タンパク質、細胞などの容器への付着防止材である「prevelex®」では、パートナー企業の治験開始に大きく貢献しました。今後も試験研究容器、遺伝子医薬品、抗体医薬品分野などでの適用を目指します。

化粧品分野では「NFG®（ナノファイバージェル®）」の化粧品メーカーでのスキンケア製品の採用増に加え、ヘアケア製品での採用を獲得、さらなる拡大を図っています。

情報通信

Society5.0の実現に必要な先端デバイスを支える新規材料の開発に取り組んでいます。

高輝度高信頼な次世代ディスプレイとして注目されるμLED関連材料、小型・薄型化を可能とするウェアレブルパッケージ関連材料、高速大容量データ通信を支える光配線材料「SUNCONNECT®」、および、Arieca社が開発した液体金属ベースの放熱材料などについて市場開発を推進しています。

環境エネルギー

グリーントランスフォーメーション（GX）による持続可能な社会の実現に貢献する製品開発に尽力しています。

リチウムイオン電池（LIB）の分野では、入出力特性の改善、長寿命化、プロセスコスト低減を狙い、スラリー添加剤の開発を進め、早期事業化を図っています。また、水素エネルギー活用のための燃料電池触媒層用材料やアンモニア電解合成触媒、軽量フレキシブル太陽電池の効率向上に寄与する電荷輸送材料の開発を進めています。

循環型社会実現に向けて、CO₂分離回収の低コスト化技術として期待されるガス分離膜技術の開発、生分解性バイオプラスチックとして急速に普及が進むポリ乳酸の成形工程での低コスト化、耐熱性改善に寄与する樹脂添加剤「エコプロモート®」の早期事業化を図っています。

アニマルケア

動物用医薬品分野の事業化に向けた企画開発に取り組んでいます。当社が長年培ってきた低分子医薬品開発/研究の技術を活用した新動物用医薬品の企画開発、並びに動物用医薬品の日本国内での販売/流通体制構築に向けた戦略の策定を進めています。

新材料企画・研究統括部門

ベンチャーキャピタルへの出資などを通じて良質なスタートアップ企業・新規テーマの発掘を手掛けています。各事業分野での新規材料・技術導入による開発テーマの新陳代謝活性化や、スタートアップ企業への戦略的出資による事業化加速に取り組んでいます。

また、研究員の育成やテーマ支援を通して、既存技術進化と新規技術創生につながる仕組みをつくり、研究開発力の強化を図っています。

2022年度の進捗

1 Cellhesion®-MS

医療法人再生会そびまクリニックとの共同研究の成果として、Cellhesion®-MSにより培養した脂肪由来間葉系幹細胞を用いた、変形性膝関節症（OA）に対する臨床研究を開始しました。通常の培養皿内の平面培養と比較し、病巣部・損傷部への集積能や抗炎症作用、血管新生能などの向上が判明しており、OA治療に対して、より高い効果を発揮することが期待されます。

2 prevelex®

当社で開発した「prevelex®」シリーズは、試験研究から臨床応用まで適応可能な、生体物質付着防止コーティング材です。Heartseed社は、虚血性心疾患に伴う重症心不全を対象とする他家iPS細胞由来心筋球の国内第1/II相治験において1例目の移植成功を発表しましたが、同治験のための他家iPS細胞由来心筋球の製造において当社の「prevelex®CC1」が用いられました。

3 SUNCONNECT®

高耐熱性を備えた低光損失の光配線材料「SUNCONNECT®」は、ポリマー光導波路用材料として顧客先で評価が進行、既に有償販売を開始しています。今後開発の進展が期待される光電気混載技術に対して、国内外の半導体パッケージ基板メーカーを中心に、本材料を広く展開していきます。

4 太陽電池用電荷輸送材料

軽量フレキシブル太陽電池で実用化が先行する有機薄膜太陽電池（OPV）においては、次世代活性層の採用による高効率化が最重要課題の一つとなっており、当社電荷輸送材料は顧客による評価が進んでいます。現在、その知見を活かし、ペロブスカイト型太陽電池向けの材料開発も進んでいます。

Vista2027の事業戦略

Strategies of Vista2027

機会とリスク

- 再生医療市場の拡大、美容・健康市場の伸長
- デジタル社会の進展とICT市場の拡大
- 低炭素社会実現に向けた技術への要請の高まり
- 開発遅延、想定された時代到来の遅れ

強み

- 精密有機合成、機能性材料設計と生物評価の融合
- 薄膜コーティングによる界面制御技術
- 外部研究機関との幅広いネットワーク

主要施策

1. 重点テーマへの資源重点配分による開発加速
2. 社内外からの新技術・新材料の取り込みと自社技術化
3. 顧客密着度向上とソリューション提案力強化